

演題 35. 日当直で問題となる血液一般検査

○柿沼豊(千葉市立青葉病院) 古賀智彦(千葉社会保険病院) 綿引一成(千葉県がんセンター) 吉田隆
(株)サンリツ) 佐藤正一(千葉県循環器病センター) 小池修司(千葉県こども病院) 麻生裕康(千葉県がんセンター) 大山正之(千葉大学医学部付属病院)

【はじめに】日当直で血液一般検査を担当している人たちは、赤血球指数の平均赤血球色素濃度 MCHC が 37 を超えると検体が乳糜しているか赤血球凝集があるのか判らぬと思うが、血液担当以外の担当者で普段慣れないと血液一般検査データをそのまま報告してしまいデータの異常すら判らないことがある。今回は赤血球凝集のある 2 症例を報告する。

【症例】

①54 歳 男性 気管支肺炎

血算の加温前データは RBC $299 \times 10^4 / \mu\text{l}$ Hg 13.4 g/dl MCHC 45.1% 血算機画面のエラーメッセージに赤血球凝集と乳糜?のエラーがあり、MCHC も 37 を超えている。加温後測定データは MCHC 36.7 と下がりエラーメッセージの赤血球凝集は表示されなかった。

②69 歳 男性 寒冷凝集素症

血算の加温前データ RBC $19 \times 10^4 / \mu\text{l}$ Hg 13.0g/dl MCHC 650.0% 血算機画面のエラーメッセージは白血球溶血不良と赤血球粒度分布異常のエラーメッセージがあり MCHC も 37 をかなり超えている。加温後測定データは、RBC $287 \times 10^4 / \mu\text{l}$ Hg 13.1g/dl MCHC 43.7% で赤血球凝集は完全には取り除けずエラーメッセージは残り、加温を延長しても同様の結果だった。機械の流路系を温めて再測定すれば MCHC が 37 を下回るかもしれないがそれもできず、結果報告には赤血球数は正確ではなく色素量を参考にしてください、とコメントを付けて報告。

【まとめ】

MCHC が 37 を超え寒冷凝集が疑われる時は加温後再測定し、改善しなければ結果報告に何らかのコメントを付け報告する。 0276-227-1131